

# 特集 厚真町ならではの放課後事業

新緑の季節になり、夜になるとカエルの大合唱が聞こえてきます。雪の少なかった昨冬。田畑の水は足りるのか？と少し心配していましたが、田んぼには例年より早めに水面が張られ、田植えも順調に進んでいるようで一安心です。

さて、本コーナーでは、教育委員会が提供している「厚真町ならではの放課後事業」について特集でご紹介します。

皆さんの小学生時代の放課後といえば、どのような生活だったでしょうか？学校から帰ってきたら、宿題そっちのけでランドセルを玄関に放り出し、近所の田んぼや空き地、路上などで、虫採り、雪遊び、陣取り、集団遊び、運動、おままごとなど…多くの仲間と一緒に、暗くなるまでいろいろな遊びを経験した方も少なくないのではないのでしょうか。世代や地域によっては家の仕事のお手伝いをしたり、スポーツ少年団や学習塾などに通っていた方もいらっしゃるかもしれません。



放課後は、こどもの1日の生活の中で比較的長い時間を過ごす時間帯ですから、「放課後をどう過ごすか？」が、子どもの発達やその後の人生に与える影響は少なくないと言えるでしょう。

かつて地域の放課後には、子どもたちが自由に遊べる豊かな環境がありました。子どもの興味をそそる田んぼや畑、森や川、池などの身近な自然、自由に遊べる近所の空き地といった物理的環境もそうですし、一步屋外に踏み出せば異年齢の子どもたちの遊び仲間という人的環境もありました。遊び仲間にはリーダー(ガキ大将)が存在し、子どもなりの一定のルールや秩序(上下関係等)の中で、さまざまな集団遊びが繰り広げられ、ときにはケンカをしたり、いたづらをして近所のおじちゃんやおばちゃんから叱られたり…といったことが自然なことだったと思います。

こうした豊かな放課後の経験から、「自ら工夫して遊びをつくるチカラ」「他者と協力するチカラ」「人間関係をつくっていくチカラ」など、その後の人生の糧となる基礎的な力が知らず知らずのうちに培われていたことを私たちは経験上よく知っています。つまり、放課後は、学校で学んだ知識や技術が実際の生活の中で生かされる場として、また、学びの原動力となる好奇心や興味・関心を育む重要な場として機能していたといえます。

では、現在の放課後の現状はどうでしょうか？多少の地域差はあるものの、共働き家庭が増え、少子化の影響で兄弟も少なく、地域の中でも子どもの姿を見かける機会が少なくなっています。また、子どもたちが自由に使える場所や空間といえば公園くらいで、“安全”の観点から子どもだけで立ち入りできる場所は限られてきています。子どもたちの生活の中に生じた隙間には、学習塾や習い事、テレビや携帯ゲーム機等といった新しい選択肢が浸透し、その領域が今も拡大しつつあります。かつてあちこちに存在していた子どもが自由に遊べる空間や近所の子ども集団はほとんど見られなくなり、本来大切であるはずの“子どもの発達や成長にとって大切な経験を積む場”が減少し、放課後が大きく様変わりしています。

厚真町教育委員会では、こうした現状を少しでも改善し、子どもたちの放課後をより豊かなものへと充実させていくために、「放課後児童クラブ」や「放課後子ども教室」を実施しています。

「放課後児童クラブ」は、共働き世帯が多くなる中で、家庭に変わって安全・安心な居場所や適切な遊びの環境を提供する事業として平成7年から開設しています。児童クラブは厚真地区、上厚真地区のそれぞれの児童会館で、ほぼ毎日(日曜、祝日、年末年始を除く)実施しており、小学1年生から6年生まで多くの子どもが利用しています。厚真町では、共働きの家庭に限らず、児童クラブを利用することができますので、登録率は厚真町全体で81%と他の市町村に比べ非常に高いことが特徴です(多くの自治体では共働き家庭以外の子どもは、学童保育の利用ができません)。

一方、「放課後子ども教室」は、子どもたちの健全な発達や成長を促すため、地域とともに豊かな体験活動を提供する

事業で、週4回日替わりで各小学校を巡回し開催しています。放課後や土曜日などに地域の方々の協力を得ながら、自然体験や集団遊びを始め、科学実験やモノづくり、運動・スポーツなど学童期の発達を促すに豊かな体験活動を年間約170回実施し、ほとんどの小学生が登録・参加をしています。

「放課後児童クラブ」「放課後子ども教室」は似たような名前の事業ですが、両事業がこれだけの規模と参加率で実施されている自治体は他になく、それぞれに固有の役割を果たしながら、厚真町ならではの子育て環境づくりに一役買っています。

今後も、子どもが豊かに育まれるまちをめざし、両事業を軸に教育・子育て環境の一層の充実を図っていきます。

